

# 第13回「日本医師会 赤ひげ大賞」受賞者紹介

(順列は北から：敬称略)

## 「赤ひげ大賞」受賞者（5名）

■福井県医師会推薦 <sup>なかむら</sup> <sup>しんいち</sup> 中村 伸一 医師 61歳 おおい町国民健康保険名田庄診療所 所長



人口約2000人の地区唯一の診療所で30年以上勤務を続けている。1991年に診療所、村役場住民福祉課、社会福祉協議会の全職員からなる「健康と福祉を考える会」を結成し、多職種による訪問調整・事例検討会、在宅ケア講座、ボランティアグループ結成など、保健・医療・福祉の連携を実現。住民とともに活動することを目指し、国保診療所と国保総合保健施設が一体化した「あつとほ〜むいきいき館」の創設にも尽力した。地域医療研修の研修医を受け入れ、後進の育成にも熱心に取り組む。

■愛知県医師会推薦 <sup>はやかわ</sup> <sup>とみひろ</sup> 早川 富博 医師 73歳 愛知県厚生農業協同組合連合会足助病院 名誉院長



1996年に赴任し、訪問診療にも従事。過疎地の在宅療養者を見守るべく、画像・音声・生体情報の双方向通信が可能なシステムを開発した他、電子カルテを導入するなど、医療・介護の情報ネットワークの構築に努めてきた。住民健診にも30年近く従事し、健康啓発活動を行うとともに、2010年には「三河中山間地域で安心して暮らし続けるための健康ネットワーク研究会」を設立して地域住民、保健・医療・福祉・介護サービス事業者、行政、各種団体等と連携した活動を展開している。

■大阪府医師会推薦 <sup>なかむら</sup> <sup>まさひろ</sup> 中村 正廣 医師 76歳 中村クリニック 理事長



かかりつけ医を志して開業し、クリニックの上に住まいを設けて約30年、時間外も患者に対応してきた。患者が最期まで住み慣れた街で過ごせるよう、地区医師会を通じて在宅医療の体制充実に注力。多職種連携、災害時の在宅医療体制の構築にも大きな役割を果たした。在宅医療の最終段階は「まちづくり」であるとして、地元商店街の中に高齢者や児童など多世代が交流する場である「新道パトリ」を私財を投じて開設、今では医療・介護・地域・各種団体との連携基盤となっている。

■和歌山県医師会推薦 <sup>たかがき</sup> <sup>ゆうさく</sup> 高垣 有作 医師 66歳 国保すさみ病院 顧問



2055年の日本の高齢化率に既に達しているすさみ町において、限られた医療資源を効率的に活用するため、広報や講演などを通じて地道な啓発活動を行い、多かつた休日・時間外の不要不急の受診を60%まで減少させた。2009年からは医師搬送型の新型ドクターカーの運用を行う一方、予防医療を推進し、臓器別にとらわれない総合診療を実践した他、赤外線センサーを用いて在宅での見守り体制も整備し、18年間で町の健康寿命を延伸させた。

■熊本県医師会推薦 <sup>まべ</sup> <sup>まさこ</sup> 間部 正子 医師 97歳 間部病院 理事



1957年に耳鼻咽喉科を開業。周辺に医療機関が少ないため、医師の義父・夫と共に内科や外傷処置、帝王切開手術助手、予防接種、健康指導にも従事し、80床の病院に拡張してからは、増加する診療時間外受診、救急車搬送患者にも24時間・365日体制で対応してきた。また、実習病院として准看護師の育成に携わり、長年、地域の学校医を務めるばかりでなく、特別養護老人ホームやデイサービスセンターを設立するなど、地域の医療・福祉に多大な貢献をしている。

## 「赤ひげ功労賞」受賞者（14名）

<sup>かとう</sup> 加藤 輝夫 (北海道)	<sup>おがさわら</sup> <sup>ますみ</sup> 小笠原 真澄 (秋田県)	<sup>たかたま</sup> <sup>まさみつ</sup> 高玉 真光 (群馬県)	<sup>こぐれ</sup> <sup>けんぞう</sup> 小暮 堅三 (東京都)
<sup>どい</sup> 土肥 直樹 (神奈川県)	<sup>なかむら</sup> <sup>くに</sup> 中村 國雄 (富山県)	<sup>きのひら</sup> <sup>あきよ</sup> 紀平 章代 (静岡県)	<sup>わたなべ</sup> <sup>こうすけ</sup> 渡辺 康介 (京都府)
<sup>たけち</sup> <sup>みきお</sup> 武地 幹夫 (鳥取県)	<sup>どて</sup> <sup>けいご</sup> 土手 慶五 (広島県)	<sup>よしだ</sup> <sup>おきむ</sup> 吉田 修 (徳島県)	<sup>いまい</sup> <sup>ようこ</sup> 今井 洋子 (愛媛県)
<sup>あそう</sup> <sup>ひろし</sup> 麻生 宏 (大分県)	<sup>とくだめ</sup> <sup>かずひろ</sup> 徳留 一博 (鹿児島県)		

年齢は2025年1月8日現在



## 「日本医師会 赤ひげ大賞」について

「日本医師会 赤ひげ大賞」は、日本医師会と産経新聞社が主催となり「地域の医療現場で長年にわたり、健康を中心に地域住民の生活を支えている医師にスポットを当てて顕彰すること」を目的として、平成24年に創設したものである。

【主催】日本医師会、産経新聞社

【後援】厚生労働省、フジテレビジョン、BSフジ

【協力】都道府県医師会

【特別協賛】太陽生命保険

### 【対象者】

病を診るだけでなく、地域に根付き、その地域のかかりつけ医として、生命の誕生から看取りまで、さまざまな場面で住民の疾病予防や健康の保持増進に努めている医師。日本医師会及び都道府県医師会の会員で現役の医師（ただし、現職の日本医師会・都道府県医師会役員は除く）。

【推薦方法】各都道府県医師会会長が1名を推薦

### 選考委員

羽毛田信吾（恩賜財団母子愛育会会長）  
向井 千秋（東京理科大学特任副学長）  
檀 ふみ（俳優）  
ロバート キャンベル（早稲田大学特命教授）  
森光 敬子（厚生労働省医政局長）  
医学生 （和歌山県立医科大学、琉球大学）  
城守 国斗（日本医師会常任理事）  
黒瀬 巖（日本医師会常任理事）  
羽成 哲郎（産経新聞社取締役）  
河合 雅司（産経新聞客員論説委員）

赤ひげ大賞公式サイト



【表彰式・レセプション】令和7年2月21日（金）午後5～8時 明治記念館